

令和6年度「過年度の卒業生に対するアンケート調査等」実施報告書

1 調査の目的

本調査は、本学が学生に対して、在学中に身につけさせたい学力や資質・能力および養成しようとする人材像に照らして、学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証することを目的とする。

2 実施概要

本学の卒業生を対象に、「現状」、「在学中の学生生活」および「在学中の学び」に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査結果は、学内において、集計・分析のうえで、教務センター等関係機関と情報を共有し、在校生に対する就職支援の改善および教育改善に反映させる。

3 実施期間

2024年6月1日より2024年6月30日まで

4 調査方法

調査票は郵送配布、郵送回収。回答記入は自記式。

5 調査（設問）内容

本学が掲げるディプロマ・ポリシーに照らして、コミュニケーション力および課題解決能力を中心とした問を設定した。

6 調査依頼対象者

卒業後の連絡先が判明し、なおかつ、調査の主旨を理解したうえで、回答への協力をえることが可能な卒業生を中心に調査を依頼し承諾をえた者。

7 学内担当

卒業生との連絡、アンケート配布・回収等の手続きおよび集計・分析については、キャリア支援センターが担当した。

8 集計結果

I 回答者基本属性

表1) 性別

男	3
女	7
その他・回答しない	0
計	10

表2) 卒業年度

2018年度以前	0
2019年度	1
2020年度	1
2021年度	1
2022年度	4
2023年度	3
計	10

表3) 卒業時の所属学科

商学科	4
観光産業学科	6
未記入	0
計	10

II 現在の状況について

表4) 現在の職業等（業種等）

製造業	2
卸売業・小売業	2
情報通信業	1
運輸業・郵便業	1
金融業・保険業	1
宿泊業・飲食サービス業	1
生活関連サービス業・娯楽業	1
公務	1
計	10

表5) 現在の職業等（職種等）

営業職	4
販売職	2
事務職	2
技術職	1
企画職	1
計	10

注) 兼務1件を含む

表6) 現在の雇用形態

正規	10
非正規	0
未記入	0
計	10

表7) 卒業後の離職経験の有無

なし	10
1回	0
2回以上	0
計	10

表8) 現在の仕事への満足度

とても満足している	1
どちらかという満足している	8
どちらかという満足していない	1
まったく満足していない	0
未記入	0
計	10

III 在学中の学生生活について

表9) 海外留学の経験の有無

ある	1
ない	9
計	10

(私費留学などを含む)

表10) インターンシップの経験の有無

ある	6
ない	4
計	10

表11) サークル(同好会)活動への参加の経験の有無

ある	6
ない	4
計	10

(北海学園大学ほか本学内外の公認・非公認を問わず広くサークル・団体への参加を含む)

表12) ボランティア活動の経験の有無

ある	7
ない	3
計	10

表13) 在学中に取得した資格・免許の有無

ある	8
ない	2
計	10

(教員免許や簿記などのほか、民間資格を含む資格全般を含む)

IV 在学中の学びについて

表14) 大学で学んだことに対する満足度

とても満足している	2
どちらかという満足している	6
どちらかという満足していない	1
まったく満足していない	1
計	10

表15) 在学中の学びによる成長の有無

とても成長した	4
どちらかという成長した	4
あまり成長しなかった	1
まったく成長しなかった	1
計	10

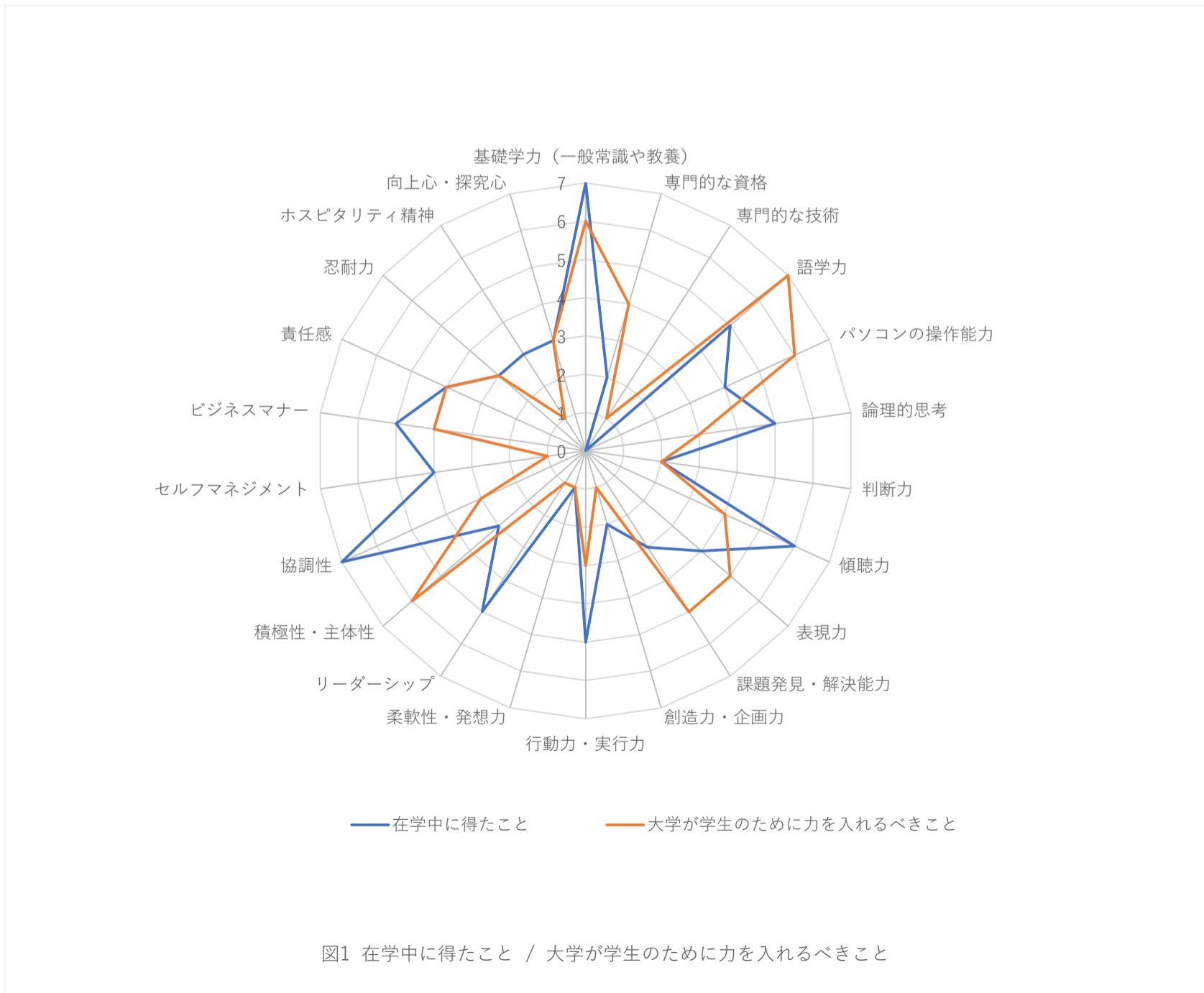
表16) 在学中の学びの、その後の社会生活や仕事への役立ちの有無

とても役立っている	2
どちらかという役立っている	6
あまり役立っていない	1
まったく役立っていない	1
計	10

表17) 在学中に得たこと / 大学が学生のために力を入れるべきこと

項目	在学中に得たこと		大学が学生のために力を入れるべきこと		
	回答数	割合	回答数	割合	
	人	%	人	%	
情報リテラシー	基礎学力（一般常識や教養）	7	31.8	6	27.3
	専門的な資格	2	9.1	4	18.2
	専門的な技術			1	4.5
	語学力	5	22.7	7	31.8
	パソコンの操作能力	4	18.2	6	27.3
論理的思考力	論理的思考	5	22.7	3	13.6
	判断力	2	9.1	2	9.1
コミュニケーション力	傾聴力	6	27.3	4	18.2
	表現力	4	18.2	5	22.7
課題解決能力	課題発見・解決能力	3	13.6	5	22.7
	創造力・企画力	2	9.1	1	4.5
	行動力・実行力	5	22.7	3	13.6
	柔軟性・発想力	1	4.5	1	4.5
チーム力	リーダーシップ	5	22.7	1	4.5
	積極性・主体性	3	13.6	6	27.3
	協調性	7	31.8	3	13.6
	セルフマネジメント	4	18.2	1	4.5
	ビジネスマナー	5	22.7	4	18.2
	責任感	4	18.2	4	18.2
	忍耐力	3	13.6	3	13.6
	ホスピタリティ精神	3	13.6	1	4.5
	向上心・探究心	3	13.6	3	13.6

注) 回答数は複数回答による。割合は回答者10名に対する数値である。



- I 回答者の基本属性の集計結果を表1から表3に示す。
- ・性別：男3、女7である。
 - ・卒業年度：2019年度1、2020年度1、2021年度1、2022年度4、2023年度3である。
 - ・卒業時の所属学科：商学科4、観光産業学科6である。
- II 「現在の状況」の集計結果を表4から表8に示す。
- ・現在の職業の業種等：最も多い業種は、製造業および卸売業・小売業がそれぞれ2である。次いで、情報通信業、運輸業・郵便業、金融・保険業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、公務がそれぞれ1である。
 - ・現在の職業の職種等：現在の職業等において、最も多い職種は、営業職4である。次いで、販売職2、事務職、技術職および企画職がそれぞれ1である。
 - ・現在の雇用形態：正規10である。
 - ・卒業後の離職経験の有無：離職経験なし10である。
 - ・現在の仕事への満足度：「満足（「とても満足している」1、「どちらかという満足している」8）」との回答が9割（ $(9/10=)$ 90.0%）である。一方で、「満足していない（「どちらかという満足していない」1）」との回答もある。
- III 「在学中の学生生活について」の集計結果を表9から表13に示す。
- ・海外留学の経験の有無：ある1、ない9である。
 - ・インターンシップの経験の有無：ある6、ない4である。
 - ・サークル（同好会）活動への参加の経験の有無：ある6、ない4である。
 - ・ボランティア活動の経験の有無：ある7、ない3である。
 - ・在学中に取得した資格・免許の有無：ある8、ない2である。
- IV 「在学中の学びについて」の集計結果を表14から表17に示す。
- ・大学で学んだことに対する満足度：「満足している（「とても満足している」2、「どちらかという満足している」6）」との回答が8割（ $(8/10=)$ 80.0%）である。一方で、「満足していない（「どちらかという満足していない」1、「まったく満足していない」1）」との回答も2割（ $(2/10=)$ 20.0%）ある。
 - ・在学中の学びによる成長の有無：「成長した（「とても成長した」4、「どちらかという成長した」4）」との回答が8割（ $(8/10=)$ 80.0%）であった。一方で、「成長していない（「あまり成長しなかった」1、「まったく成長していない」1）」との回答も2割（ $(2/10=)$ 20.0%）ある。
 - ・在学中の学びがその後の社会生活や仕事に役立っているか否かの有無：「役立っている（「とても役立っている」2、「どちらかという役立っている」6）」との回答が8割（ $(8/10=)$ 80.0%）で

ある。一方で、「役立っていない（「あまり役立っていない」1、「まったく役立っていない」1）」との回答も2割（(2/10=）20.0%）である。

- ・ 在学中に得たこと：回答数が多い上位の項目は、「基礎学力（一般常識や教養）」10、「協調性」7、「傾聴力」6である。
- ・ 大学が学生のために力を入れるべきこと：回答数が多い上位の項目は、「語学力」7、「基礎学力（一般常識や教養）」、「パソコンの操作能力」および「積極性・主体性」がそれぞれ6である。

IV 記述式回答 [大学が学生のために力を入れるべきこと]（えられた回答から意見を集約）

- ・ 就職に向けた専門知識のさらなる深化。
- ・ 学生から社会人への移行をスムーズにするため、企業や団体との強固なつながりを活用した経験値の向上。
- ・ PC基本操作（特にエクセル）の習熟の強化。
- ・ 実体験を通じた幅広い経験値を積む機会の提供。

V 記述式回答 [卒業生向けに導入してほしいサービスや支援]（えられた回答から意見を集約）

- ・ 卒業後に、大学との情報交換が可能な制度やツール

※調査結果を受けて示唆された点は以下である。

- ・ 現在の仕事への満足度、大学で学んだことに対する満足度、在学中の学びによる成長度、および在学中の学びの仕事に対する役立ち度の割合は8割を占めており、いずれの項目においても学びの成果がえられたといえよう。ただし、満足度、成長度、役立ち度がえられていない卒業生も一定数いることから、在学時に実施している「講義に対するアンケート」および「卒業時のアンケート」など他の調査結果も加味したうえで、課題を探り改善へむけて対策を講じたい。
- ・ 「在学中に得たこと」および「大学が学生のために力を入れるべきこと」の双方で回答者が多い項目として共通しているのが「基礎学力（一般常識や教養）」であった。したがって、この一般常識や教養に関しては引き続き、初年度教育の質の向上へむけて継続したプログラムを展開していく必要がある。
- ・ 一方、在学中にえられず、しかし、卒業して感じている「大学が学生のために力を入れるべきこと」として「語学力」、「積極性・主体性」をあげている。すなわち、これらは、「情報リテラシー」、「チーム力」の категорияに類する。情報リテラシー、チーム力を涵養するプログラムが必要であろうことが判明した。今後は、語学教育に力点をおくと同時に、チーム力を高めるためのグループディスカッションおよびディベートを取り入れたプログラムの検討が必要であろう。
- ・ 記述式自由回答では、在学中の外部とのつながりや卒業後の大学とのかかわりを希望する回答が特徴的であった。今後は、同窓会などとの連携強化を図り、卒業生の意向を反映する企画を立案していきたい。

以上